



平成23年12月26日

枚方市上下水道事業管理者
西尾和三様

枚方市上下水道事業経営委員会

委員長 真山達志

枚方市上下水道事業の経営に関する意見について

枚方市では、平成23年4月に下水道事業へ地方公営企業法を適用するとともに、上下水道組織の統合を行い、新たに上下水道局が設置された。これにより、本委員会は、下水道事業の経営評価及び上下水道事業の経営計画等の策定に関することを新たに担任事務に加え、調査審議を行っていくことになった。

本委員会は、枚方市水道事業中期経営計画の進行管理を目的とした水道事業経営評価（平成22年度実績）及び水道、下水道両事業の計画等の策定等について、平成23年度中に2回の委員会審議を行い、その結果をまとめたので、枚方市上下水道事業経営委員会規程第2条の規定に基づき、次のとおり意見を具申する。

記

- 1 水道は、生活及び社会経済活動を支える基盤施設であり、安全・安心な水道水を安定かつ持続的に供給することは、快適な生活の実現や社会経済活動の維持・発展に不可欠なものである。

一方、下水道は、トイレの水洗化はもとより雨水対策や都市の浸水対策を担うとともに、河川等水質保全水域の環境保全に寄与するものである。下水道処理過程から創出されるエネルギー資源は、温暖化対策や循環型社会の構築など新たな役割も期待されることから、下水道は重要な社会基盤施設である。このように多機能な役割を持つ下水道施設について、市民等の要請に的確に対応し、安定した下水道サービスを持続的に提供し続けるためには、将来を見通した健全な財政基盤が必要不可欠である。

上下水道事業の統合により、上下水道事業管理者の下、水循環を考慮した総合的な水行政施策を実施するとともに、長期的な経営健全化の目標を立て、その目標達成に向けて努力し、上下水道事業の良質なサービスを安定的に供給されることを願うものである。

2 上下水道局の自己評価結果に対し、各委員の専門的見地等幅広い観点からそれぞれの計画主要施策の評価の妥当性について調査審議を行った。

具体的には、23件の基本施策に関連付けた40件の計画主要施策のうち、既に完了した3件を除く37件に対し、当初目標を上回る成果が得られた計画主要施策（S評価）が3件、当初目標通りの成果が得られた計画主要施策（A評価）が33件、当初目標に向けた取り組みが未実施あるいは検討のみに留まっている計画主要施策（B評価）が1件となっており、自己評価結果は前年度と全く同じ結果になったものの概ね妥当であると判断した。

また、自己評価結果に基づく『枚方市水道ビジョン基本方向「6つのS」』の達成状況についても、すべてが当初目標通りの成果（A評価）となっており、水道ビジョンに掲げた基本理念『市民の暮らしや企業活動を支える～信頼される水道 満足される水道 持続可能な水道』達成に向け、取り組んでいるものと評価できる。

しかしながら、委員会において委員から示された意見については、上下水道局として迅速かつ具体的な対応が必要なものが含まれており、その進捗状況については、来年度の経営委員会への報告が必要であると考えられる。

3 上下水道ビジョン等に基づく実施計画策定にあたっては、計画主要施策の達成状況を判断するための基準として利用することを念頭に、可能な限り数値化した客観的かつ具体的な数値目標を設定する必要があると考えられる。